

2

防災指針

- (1) 防災指針とは
- (2) ハザード情報の整理
- (3) 災害リスク分析
- (4) 防災上の課題整理
- (5) 防災まちづくりに向けた取組の検討

(1) 防災指針とは

① 防災指針とは

防災指針とは

都市防災に関する機能確保のために、『立地適正化計画』に位置付けるものです。

- この中で、居住誘導区域における災害リスクをできる限り回避あるいは低減させるために必要な防災・減災対策を講じます。

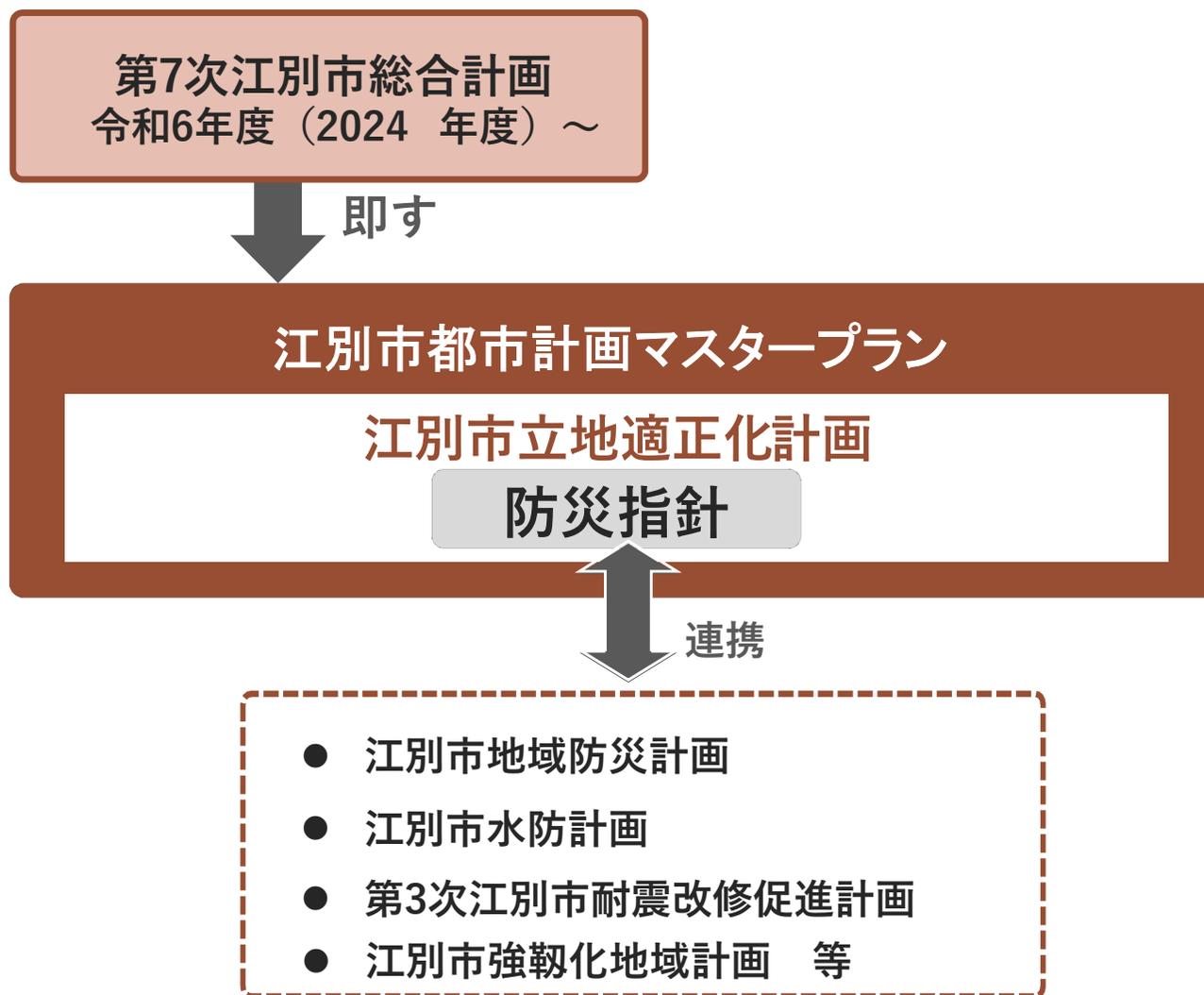
対象となるハザード種別

災害種別	ハザード種別	居住誘導区域設定における考え方
洪水災害	浸水想定区域	リスクの程度を勘案し、居住誘導区域に含み、必要な防災・減災対策を講じる
	洪水家屋倒壊等氾濫想定区域	
土砂災害	土砂災害特別警戒区域	居住誘導区域に含まない
	土砂災害警戒区域	リスクの程度を勘案し、居住誘導区域に含み、必要な防災・減災対策を講じる
	急傾斜地崩壊危険箇所	
地震災害	震度	地震発生時は全市的に揺れるため、居住誘導区域からの除外は困難であり、居住誘導区域に含み、必要な防災・減災対策を講じる
(参考：大規模盛土造成地)		ハザード区域ではなく、建築規制もないため、居住誘導区域に含む

(1) 防災指針とは

② 防災指針の位置づけ

本指針は、「江別市総合計画」に即し、「江別市地域防災計画」をはじめとした防災関連の計画との連携を図るものとしします。



第7次江別市総合計画
令和6年度（2024年度）～

即す

江別市都市計画マスタープラン

江別市立地適正化計画

防災指針

連携

- 江別市地域防災計画
- 江別市水防計画
- 第3次江別市耐震改修促進計画
- 江別市強靱化地域計画 等

(1) 防災指針とは

③ 防災指針策定の流れ

【ステップ1】 ハザード情報の整理	<ul style="list-style-type: none">●過去の災害発生状況及び被害を整理します。●各種災害ハザード情報等を収集し、整理します。
【ステップ2】 災害リスク分析	<ul style="list-style-type: none">●災害ハザード情報や人口分布状況、施設分布状況等を重ね合わせ、発生頻度や規模を考慮した災害リスク分析を行います。
【ステップ3】 防災上の課題整理	<ul style="list-style-type: none">●災害リスク分析の結果から、災害リスクの高い箇所の抽出や防災上の課題を整理します。
【ステップ4】 防災まちづくりに 向けた取組の検討	<ul style="list-style-type: none">●災害リスクと課題を踏まえ、居住誘導の方向性や防災・減災対策並びに対策の実施主体、実施スケジュールを検討します。

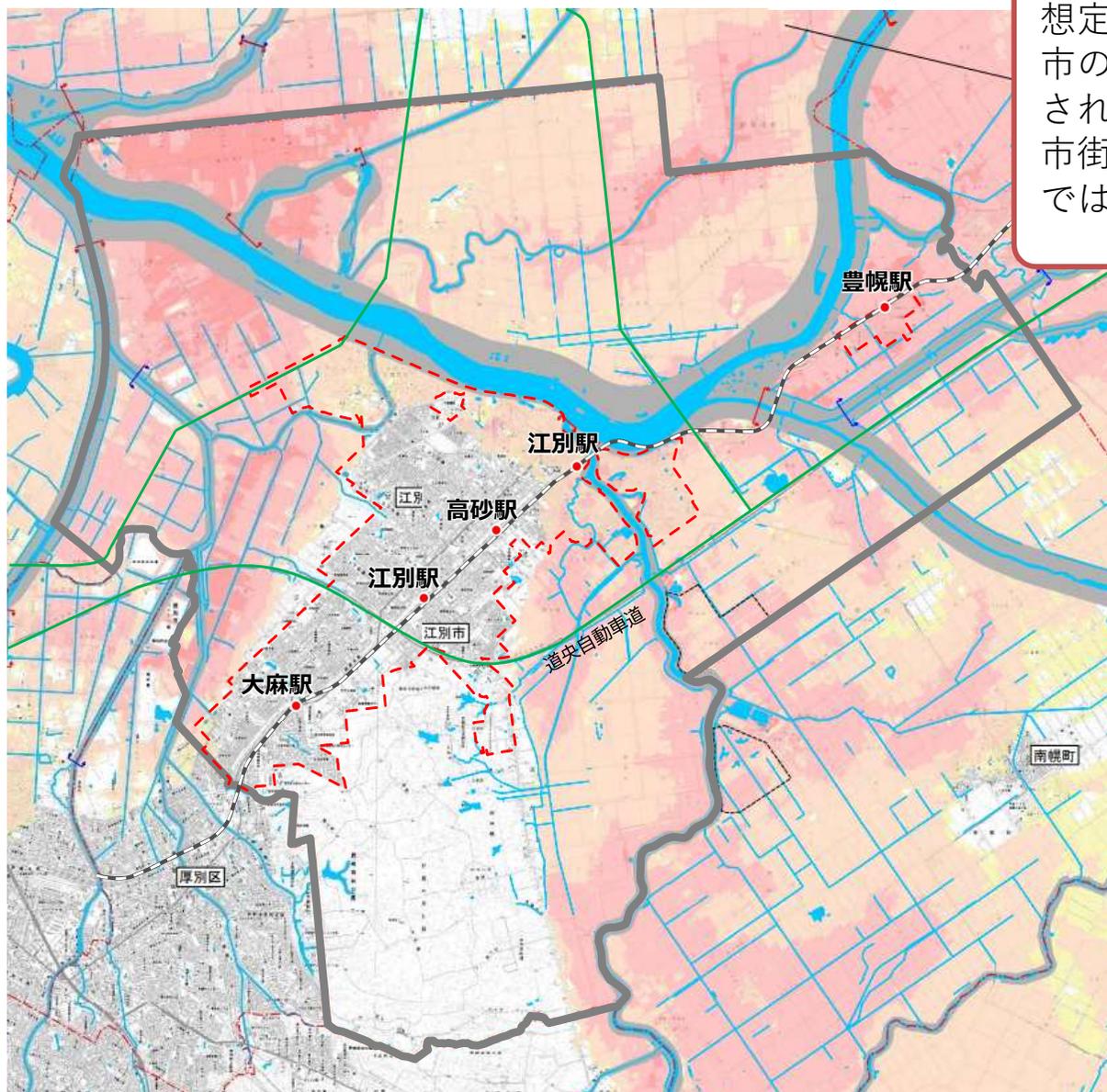
(2) ハザード情報の整理 (洪水)

① 過去の主な災害発生状況

発生年月	種類	原因	被害
昭和45年4月	融雪	内水湛水	床下63戸、田畑浸水300ha
昭和45年5月	融雪	内水湛水	床上27戸、床下48戸、田畑浸水1,078ha、道路冠水10.5km、被害額25,175千円
昭和47年9月	集中豪雨	内水湛水	床上6戸、畑作被害18.2ha、床下24戸、道路4ヵ所、被害額2,455千円
昭和49年4月	暴風	低気圧	家屋等の全半壊、一部破損、被害額53,879千円
昭和50年8月	豪雨	石狩川決壊氾濫、各支川氾濫、内水湛水	床上259戸、田畑浸冠水906ha
昭和50年8月	豪雨	台風6号	床下241戸、田畑浸冠水1,649ha、土木被害24ヵ所、死者1名、被害額1,150,000千円
昭和54年10月	暴風雨	台風20号、内水湛水	床上1戸、床下23戸、田畑浸水130ha、被害額23,905千円
昭和56年8月	集中豪雨	石狩川・各支川堤防決壊、氾濫	全壊4戸、床上浸水440戸、田畑浸冠水5,509ha、被害額5,653,816千円
昭和56年8月	暴風雨	台風15号、内水湛水	床上浸水91戸、田畑浸冠水1,805ha、被害額659,845千円
平成4年9月	豪雨	内水湛水	床上8戸、床下28戸、被害額16,308千円

(2) ハザード情報の整理 (洪水)

② 洪水災害 洪水浸水想定区域 (想定最大規模)



想定最大規模の降雨により堤防が決壊した場合、市の北部・西部・東部の広い範囲で浸水が想定されます。

市街化区域内では江別地域の一部と、豊幌地区では3.0m~5.0m未満の浸水が想定されています。

想定最大規模：

想定し得る最大の降雨規模、1000年に1回程度を想定。(1000年毎に1回発生する周期的な降雨ではなく、1年の間に発生する確率が1/1000(0.1%)以下の降雨)

凡 例

浸水した場合に想定される水深(ランク別)

- 0.5m未満の区域
- 0.5~3.0m未満の区域
- 3.0~5.0m未満の区域
- 5.0~10.0m未満の区域
- 10.0~20.0m未満の区域

— 市町村界

▭ 遊水地群(建設中)

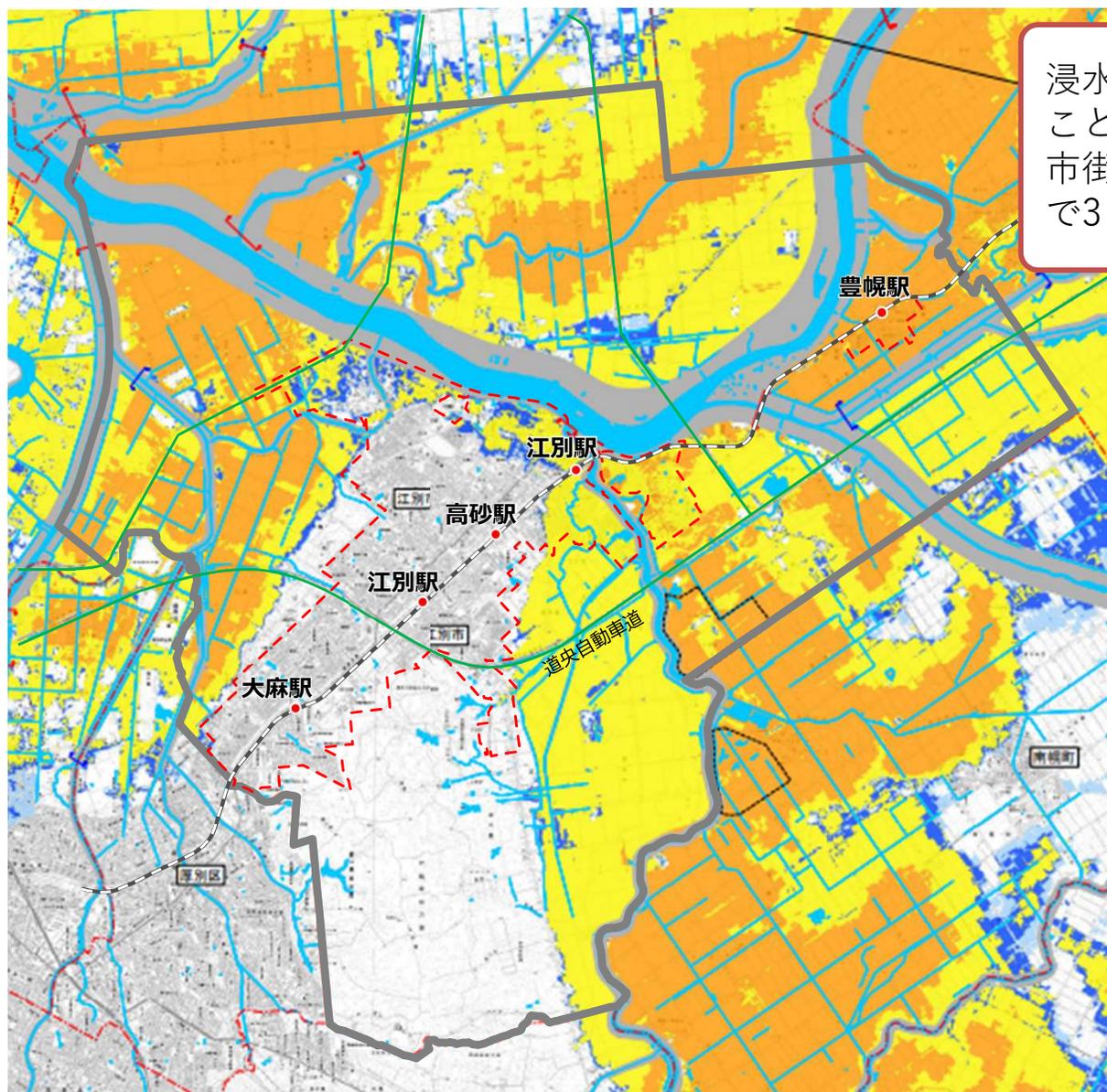
↗ ↘ 浸水想定区域の指定対象となる洪水予報河川

↕ ↔ 浸水想定区域の指定対象となる水位周知河川

石狩川下流(本川・支川重ね図)洪水浸水想定区域図 | 札幌開発建設部 (mlit.go.jp)

(2) ハザード情報の整理 (洪水)

④ 洪水災害 洪水浸水想定区域 (浸水継続時間)



浸水区域の大部分で、1日以上浸水が継続することが想定されています。
市街化区域内では、江別地区の一部や豊幌地区で3日以上継続すると想定されています。

前提条件：

想定し得る最大の降雨規模、1000年に1回程度を想定。(1000年毎に1回発生する周期的な降雨ではなく、1年の間に発生する確率が1/1000(0.1%)以下の降雨)

凡 例

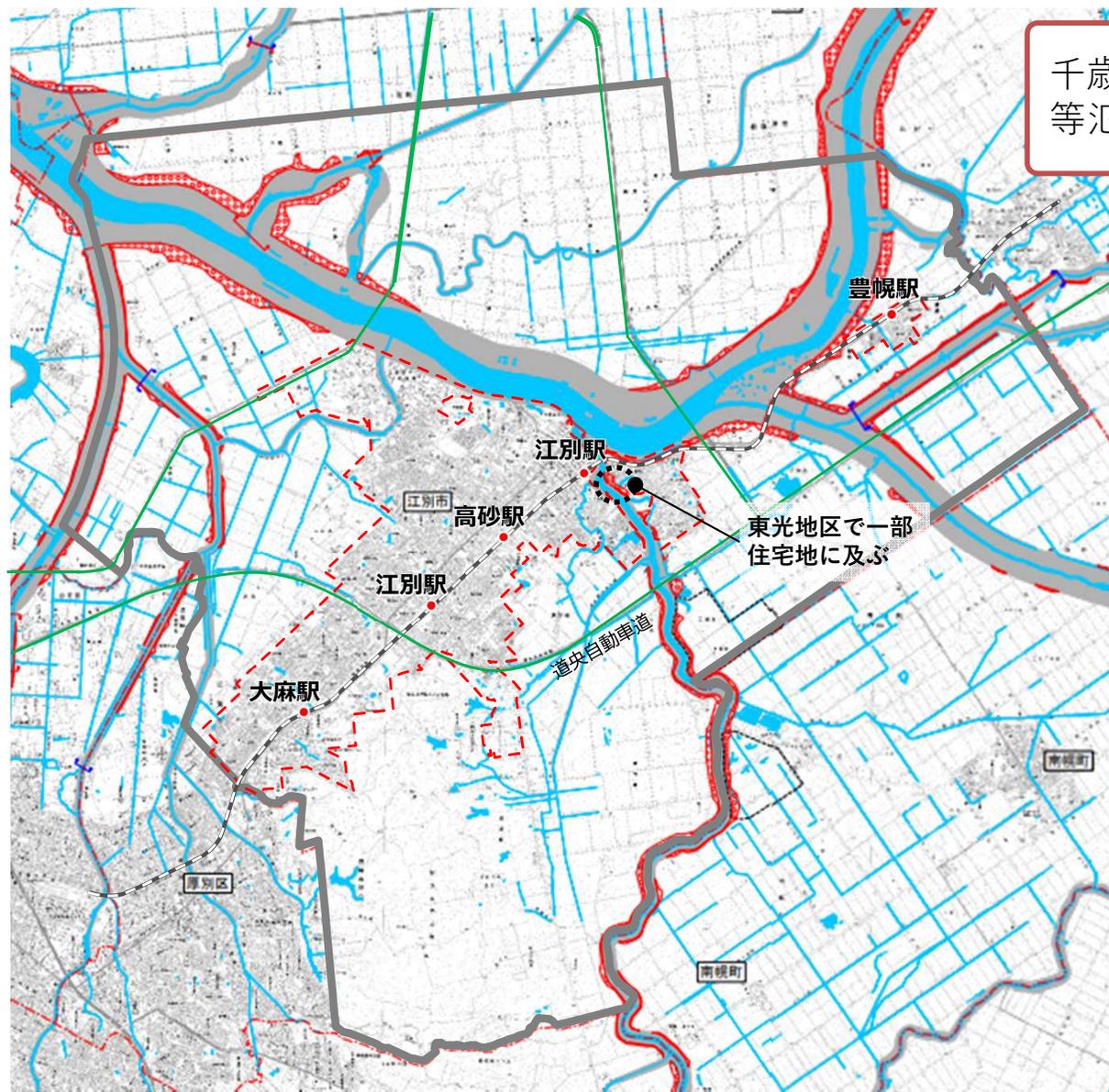
浸水継続時間

- 12時間未満の区域
- 12時間～1日未満の区域
- 1日～3日未満の区域
- 3日～1週間未満の区域
- 1週間～2週間未満の区域
- 市町村界
- 遊水地群 (建設中)
- 浸水想定区域の指定対象となる洪水予報河川
- 浸水想定区域の指定対象となる水位周知河川

石狩川下流 (本川・支川重ね図) 洪水浸水想定区域図 | 札幌開発建設部 (mlit.go.jp)

(2) ハザード情報の整理 (洪水)

⑤ 洪水災害 洪水浸水想定区域 (家屋倒壊等氾濫想定区域 氾濫流)



千歳川の河岸の一部 (東光地区) で、家屋倒壊等氾濫想定区域が住宅地に及んでいる。

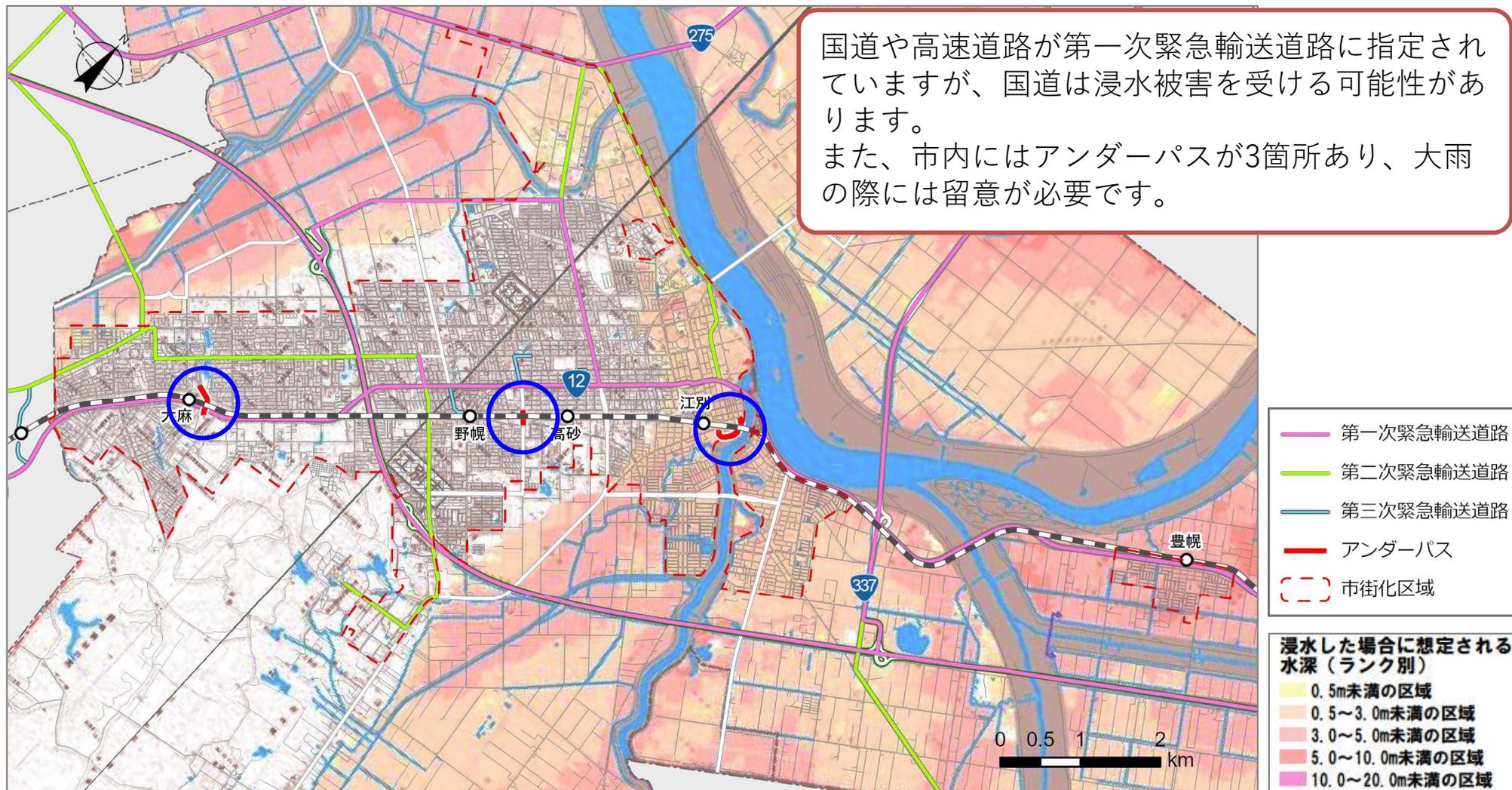
家屋倒壊等氾濫想定区域：
洪水時に家屋の流失・倒壊をもたらすような氾濫流が発生するおそれがある範囲を示すもの

凡 例	
	家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流)
	市町村界
	遊水地群 (建設中)
	浸水想定区域の指定対象となる洪水予報河川
	浸水想定区域の指定対象となる水位周知河川

石狩川下流 (本川・支川重ね図) 洪水浸水想定区域図 | 札幌開発建設部 (mlit.go.jp)

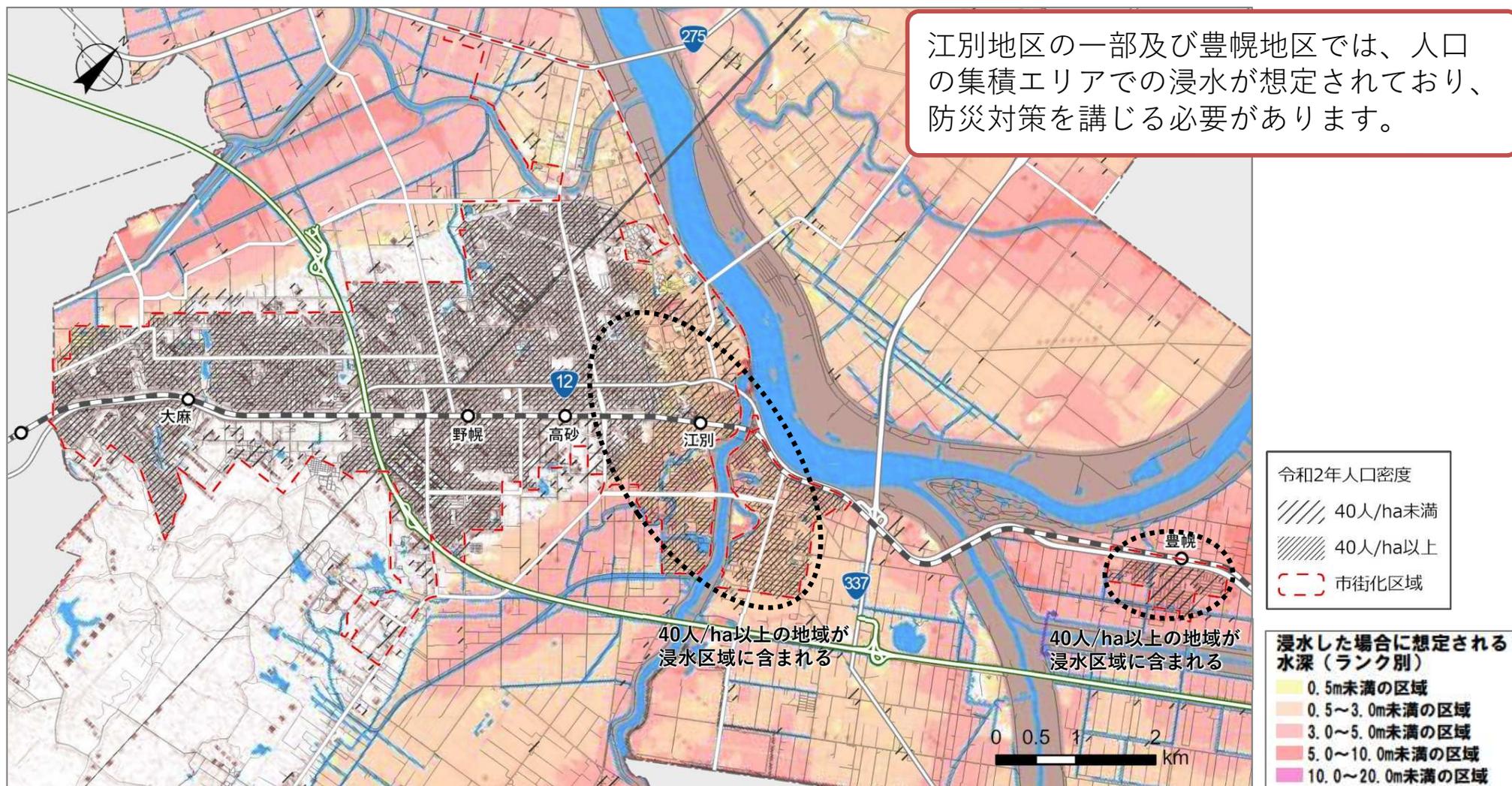
(3) 災害リスク分析 (洪水)

・浸水想定 (最大想定) × 道路網



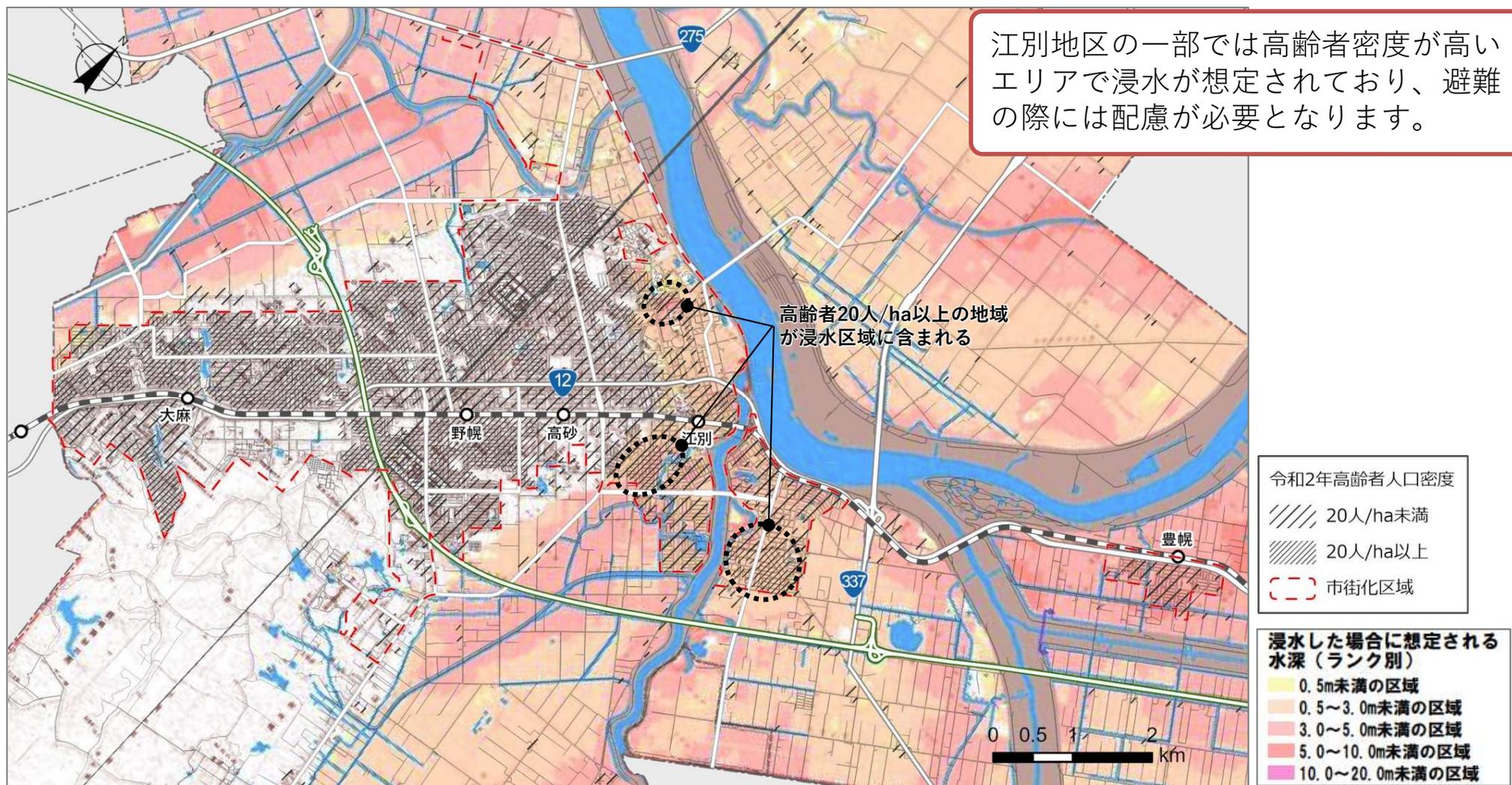
(3) 災害リスク分析 (洪水)

- ・ 浸水想定 (最大規模) × 人口密度



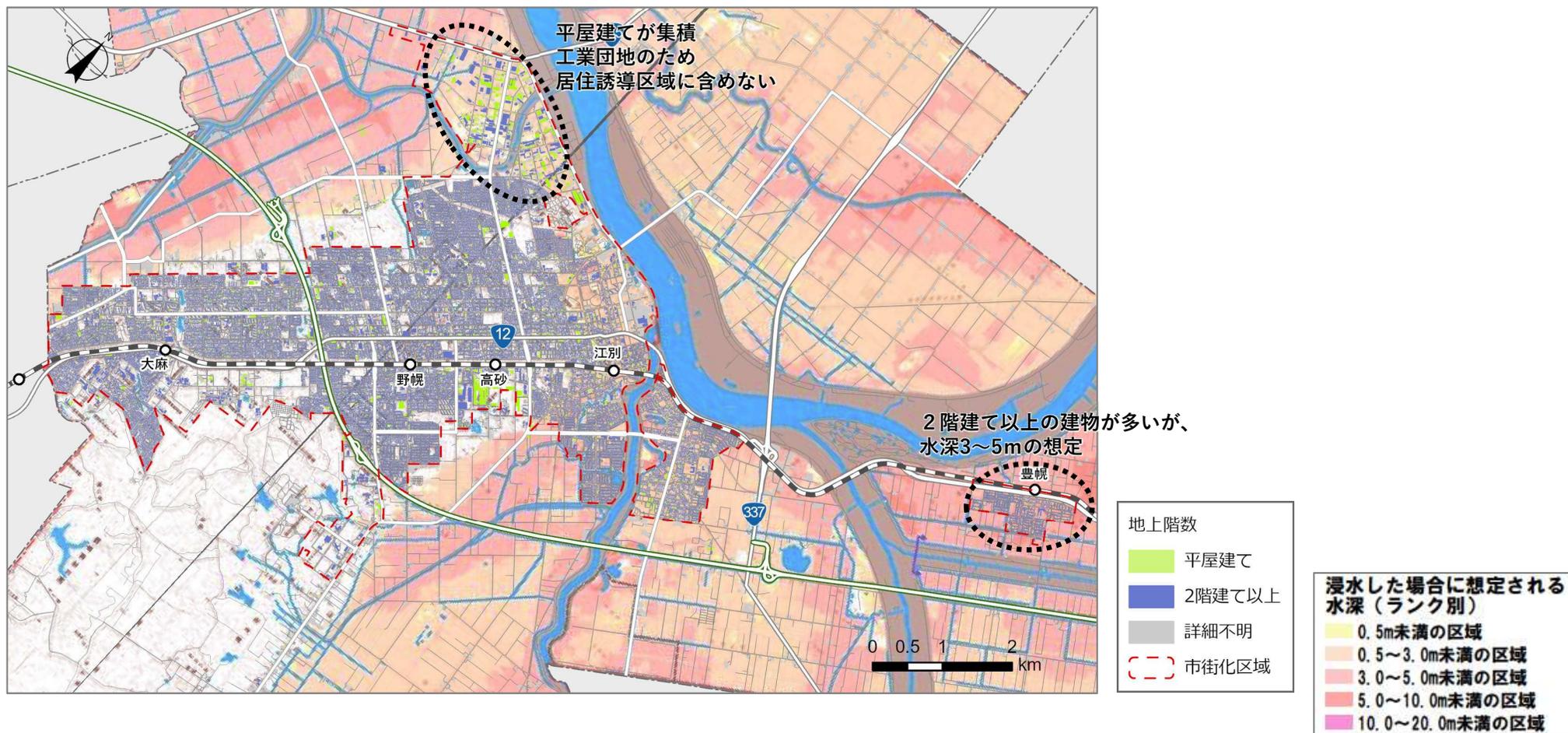
(3) 災害リスク分析 (洪水)

・ 浸水想定 (最大規模) × 高齢者人口密度



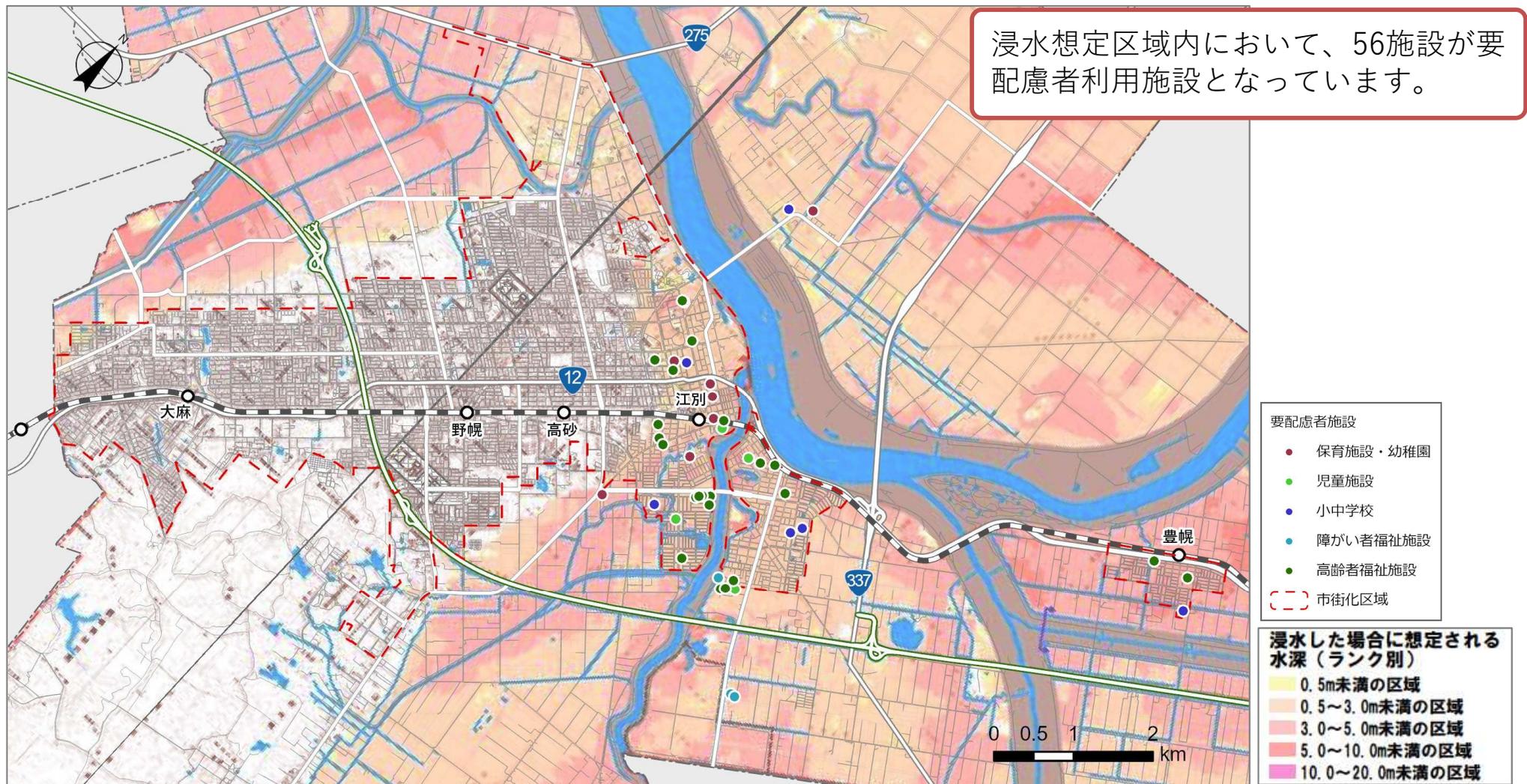
(3) 災害リスク分析 (洪水)

・ 浸水想定 (最大規模) × 建築物の地上階数分布



(3) 災害リスク分析 (洪水)

・浸水想定 (最大規模) × 浸水想定区域内における要配慮者利用施設



要配慮者利用施設：「水防法」により要配慮者利用施設の所有者・管理者は以下が義務付けられる

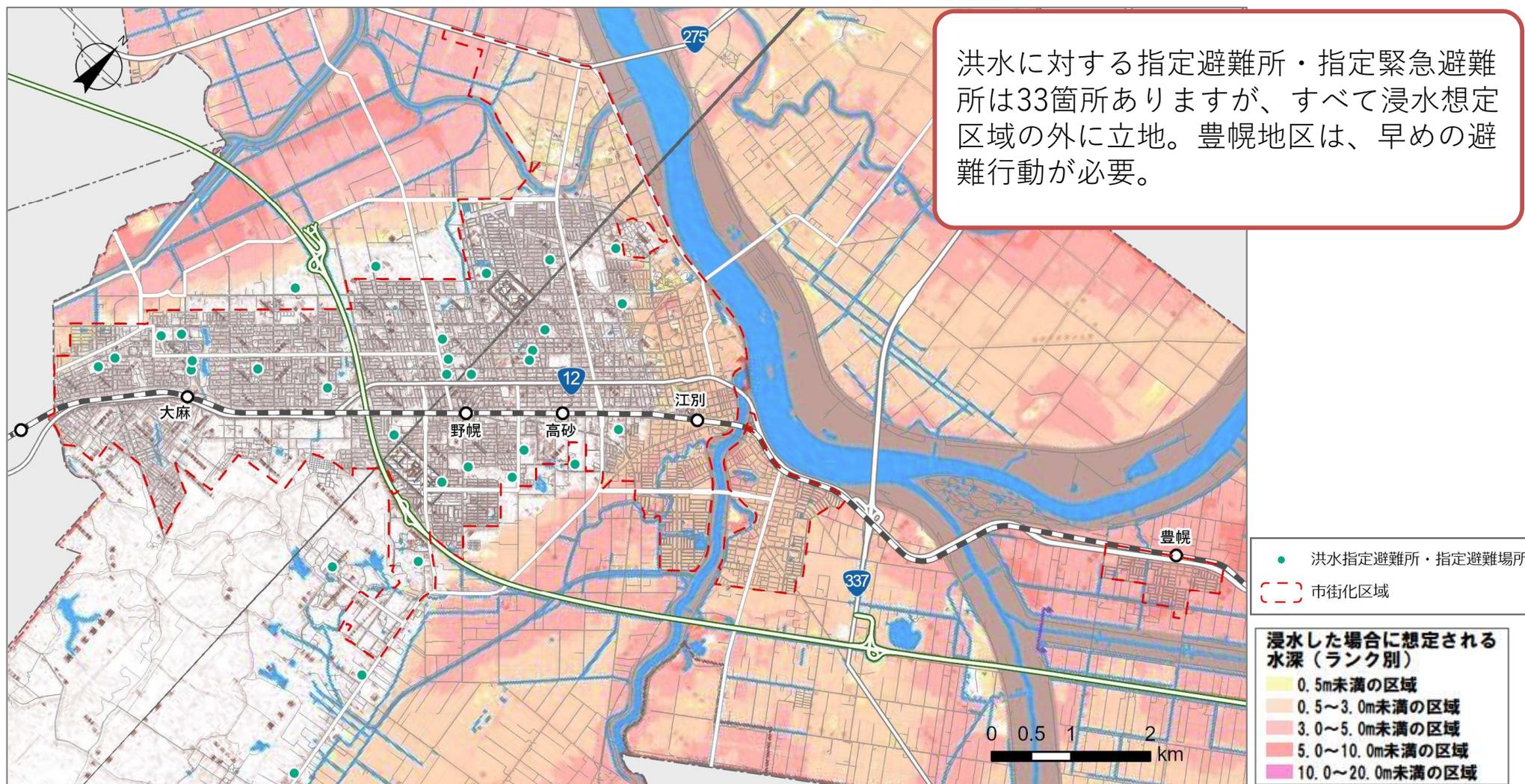
- ・避難確保計画の作成
- ・避難確保計画作成の市町村への報告
- ・訓練の実施
- ・自衛水防組織の設置 (努力義務)

石狩川下流 (本川・支川重ね図) 洪水浸水想定区域図 | 札幌開発建設部 (mlit.go.jp)

要配慮者施設：江別市資料をもとに作成

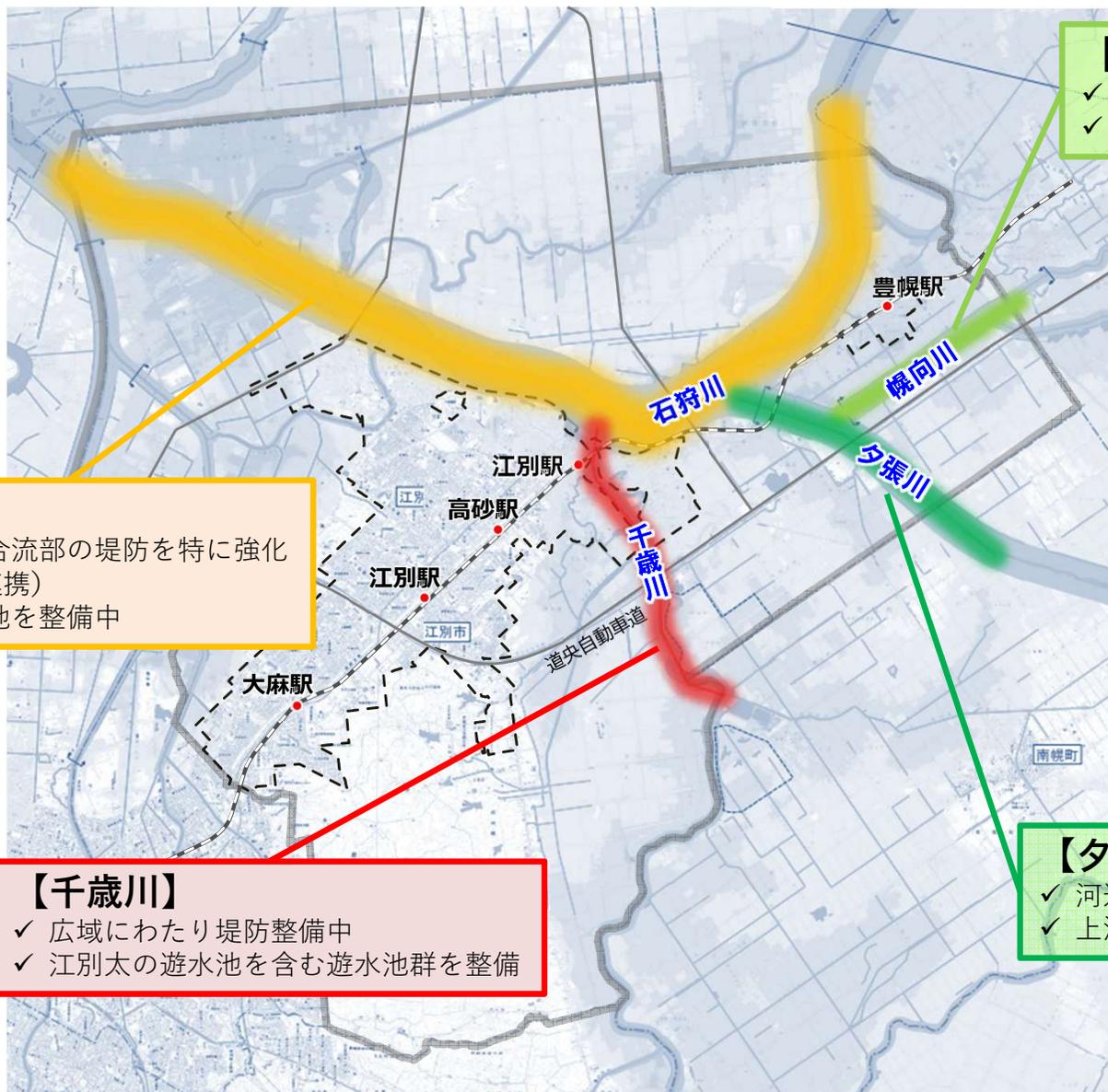
(3) 災害リスク分析 (洪水)

・ 浸水想定 (最大想定) × 洪水指定避難所・指定避難場所



(3) 災害リスク分析 (洪水)

・河川の主な整備計画



【石狩川】
✓ 千歳川や夕張川の合流部の堤防を特に強化
(まちづくりとも連携)
✓ 上流では中流遊水地を整備中

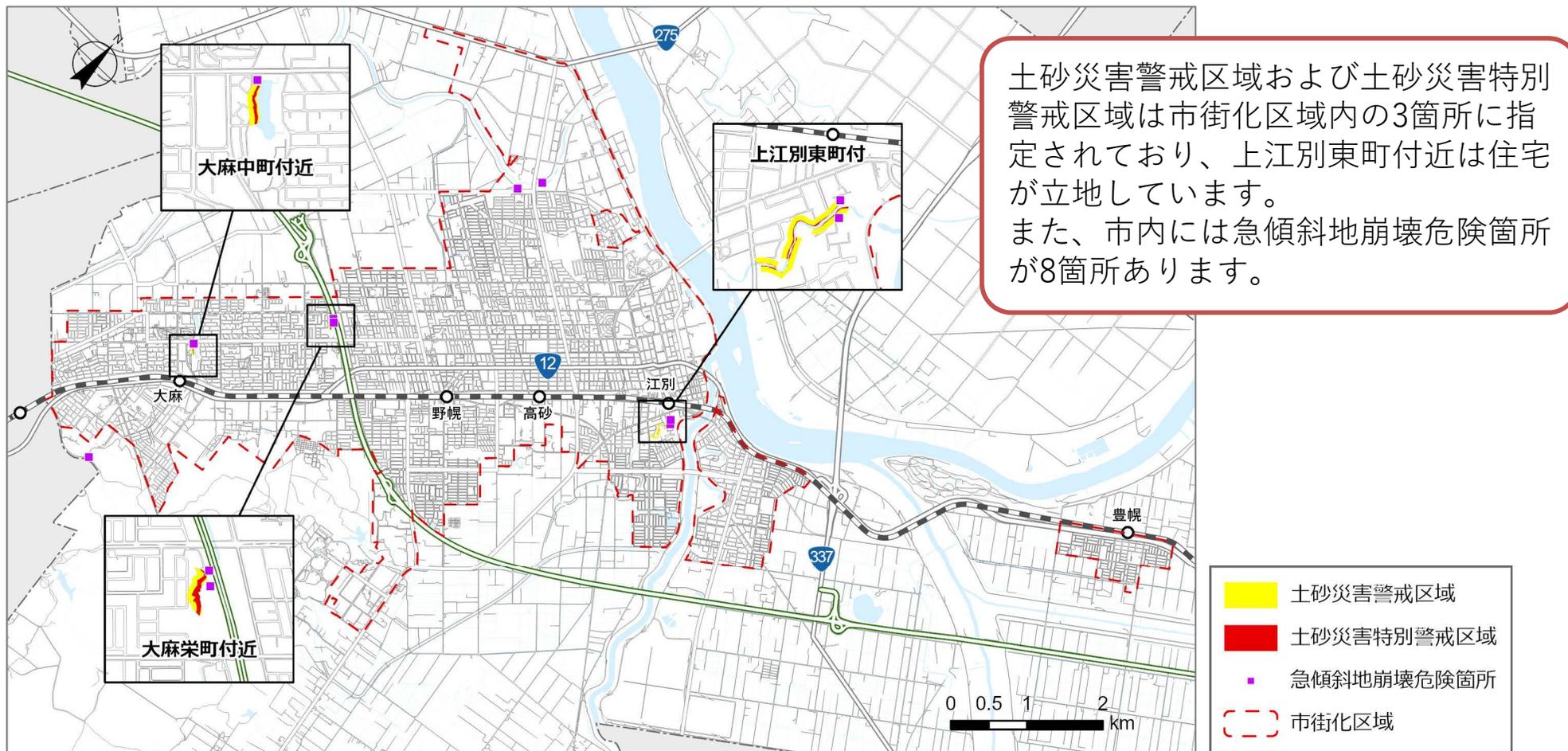
【千歳川】
✓ 広域にわたり堤防整備中
✓ 江別太の遊水池を含む遊水池群を整備

【幌向川】
✓ H15～H21に堤防整備済み
✓ 一部、断面が狭い橋梁区間を整備中

【夕張川】
✓ 河道掘削により河川断面確保
✓ 上流ではダムを整備により貯留機能を確保

(2) ハザード情報の整理 (土砂)

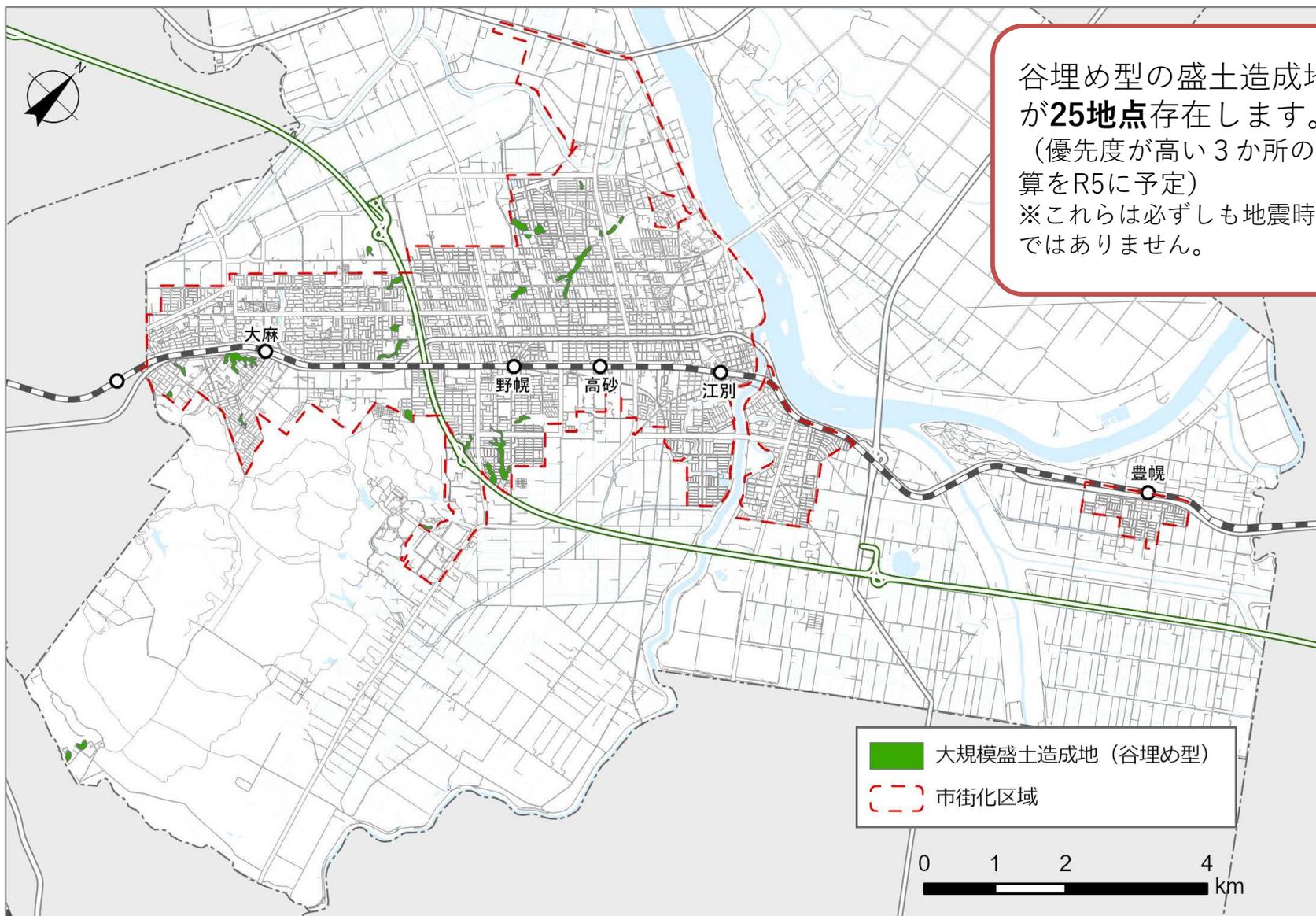
- ・ 土砂災害 土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域・急傾斜地崩壊危険箇所



土砂災害（特別）警戒区域：北海道土砂災害警戒区域情報システム
急傾斜地崩壊危険箇所：江別市防災安心マップより作成

(2) ハザード情報の整理 (土砂)

・大規模盛土造成地

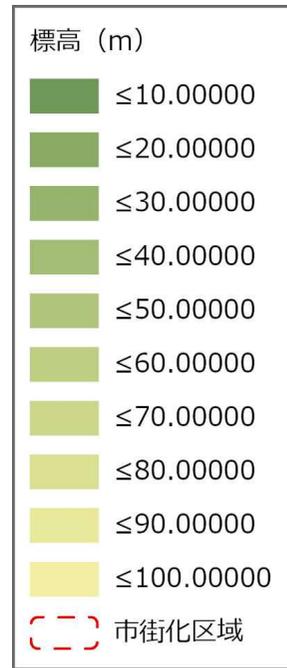


(3) 災害リスク分析 (土砂)

・地形



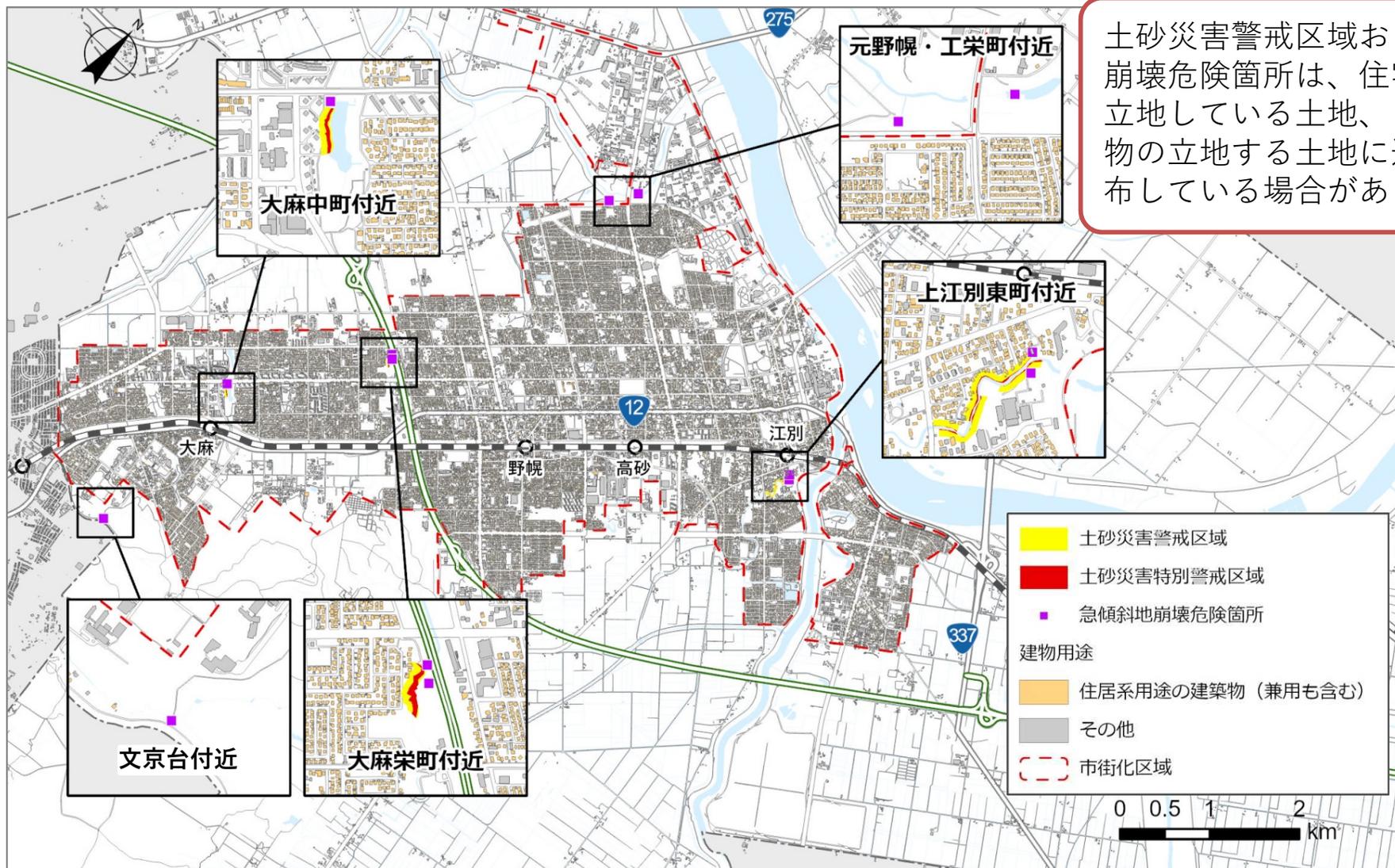
南端部の道立野幌森林公園内の93mが最高標高で、市街地はなだらかで起伏の少ない地形となっています。



国土地理院 基盤地図情報
数値標高モデルより作成

(3) 災害リスク分析 (土砂)

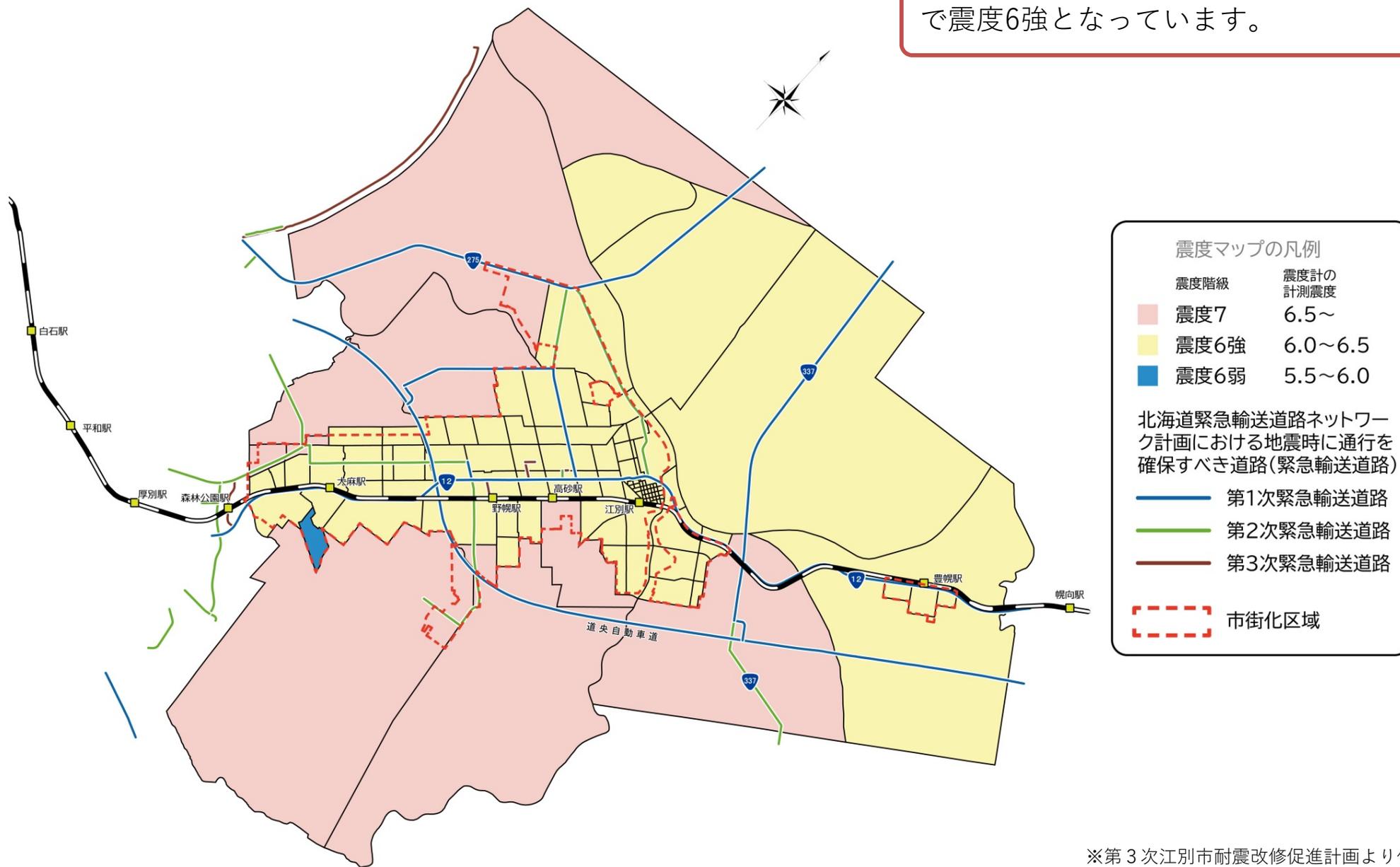
・土砂災害×建築物の立地状況



(2) ハザード情報の整理 (地震)

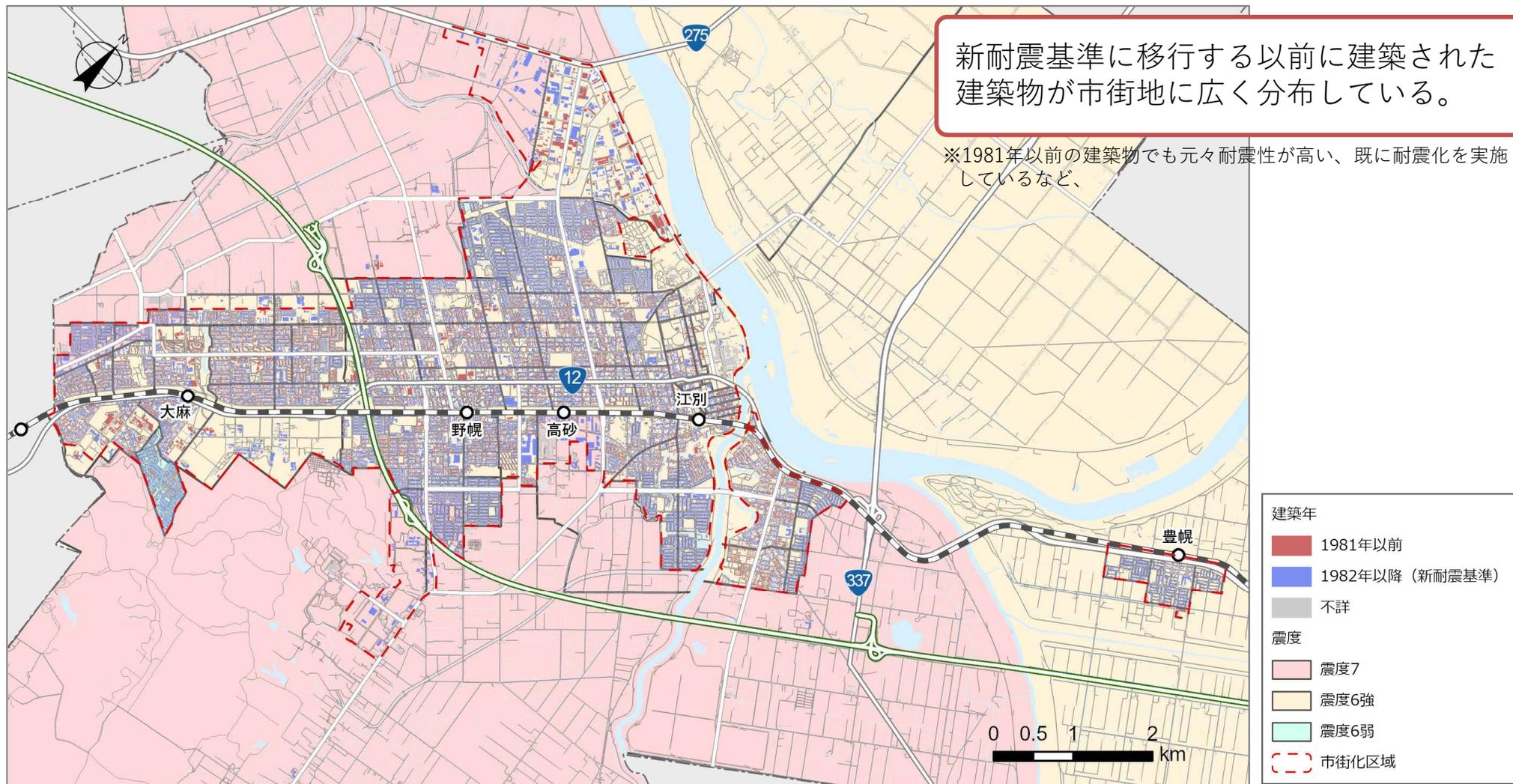
・地震災害 想定最大震度

想定最大震度は市街化区域の大部分で震度6強となっています。



(3) 災害リスク分析 (地震)

・揺れやすさ × 建築年



※1981年6月に新耐震基準に移行

※第3次江別市耐震改修促進計画より作成

(3) 災害リスク分析 (地震)

・揺れやすさ分布×市有建築物の耐震化状況

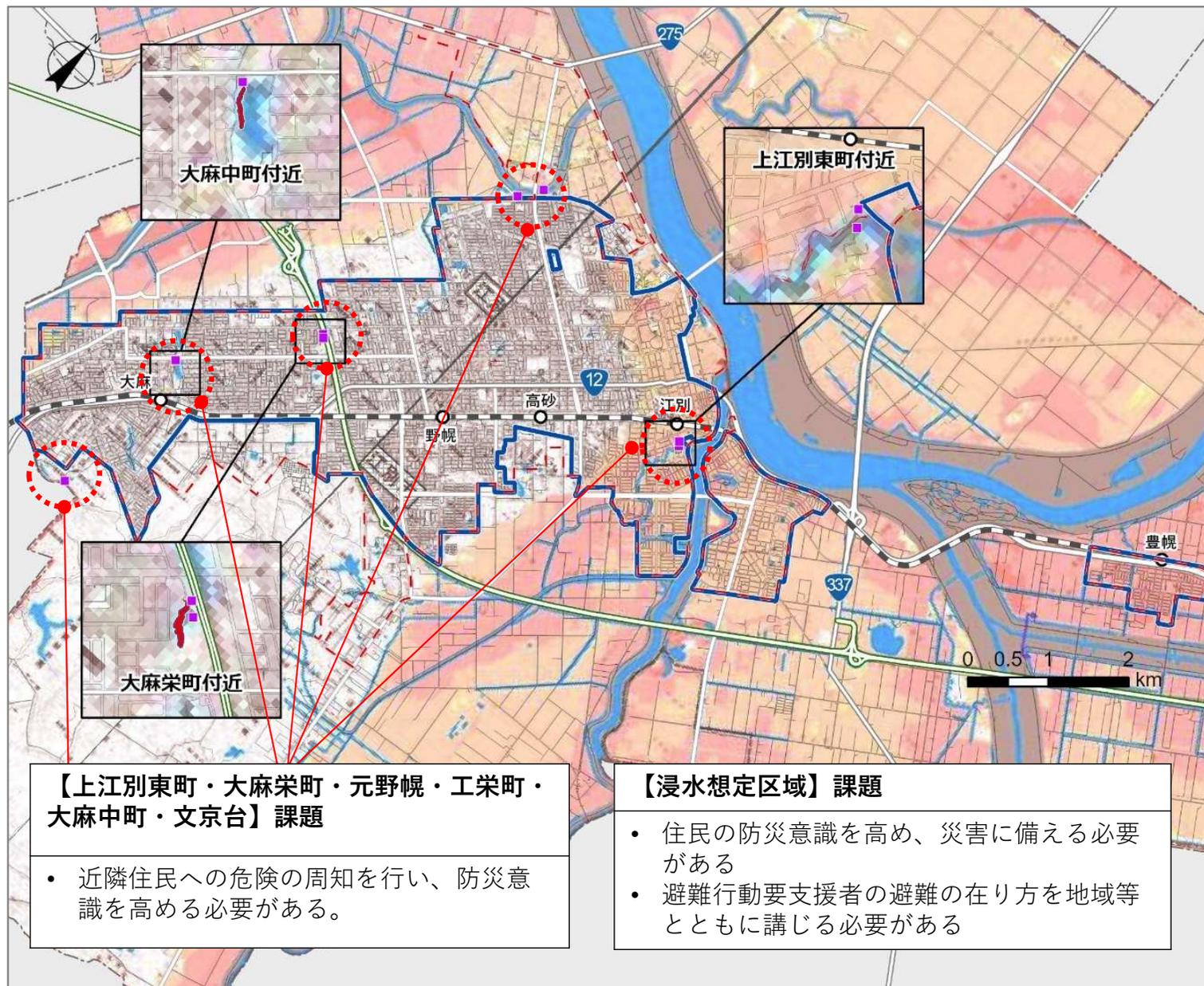


※第3次江別市耐震改修促進計画をもとに作成

(4) 防災上の課題整理

災害種別	市全体の課題	地域別の課題
洪水災害	<ul style="list-style-type: none"> 想定最大規模、計画規模ともに広範囲な浸水が想定される。 ⇒治水対策とともに、住民の防災意識を高め、災害に備える必要がある。 	<p>【江別地区・豊幌地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3mを超える浸水や氾濫流が想定される 浸水継続時間が3日以上続き、緊急輸送道路となる国道も浸水する可能性がある 高齢者の多いエリアや要配慮者利用施設が浸水想定区域に存在する 浸水想定区域外に位置する指定避難場所・避難所まで距離がある <p>⇒早めの避難行動が取れる体制づくり 住民の防災意識を高め、災害に備える必要がある 要支援者の避難の在り方を地域等とともに講じる必要がある</p>
土砂災害	—	<p>【上江別東町・大麻栄町・元野幌・工栄町・大麻中町・文京台】</p> <ul style="list-style-type: none"> 土砂災害警戒区域・急傾斜地崩壊危険箇所の付近に住宅がある <p>⇒近隣住民への危険の周知を行い防災意識を高める必要がある。</p>
地震災害	<ul style="list-style-type: none"> 市全域で大きな揺れが起こる可能性がある <p>⇒耐震化や身近な対策等に努め減災に努める必要がある。</p>	—
大規模盛土造成地	<ul style="list-style-type: none"> 谷埋め型の盛土造成地が25地点存在 <p>⇒優先度の高い3か所を調査。経過を注意深く観察していく必要がある。</p>	—

(4) 防災上の課題整理



 居住誘導区域
 土砂災害特別警戒区域
■ 急傾斜地崩壊危険箇所
 市街化区域
浸水した場合に想定される水深（ランク別）
 0.5m未満の区域
 0.5～3.0m未満の区域
 3.0～5.0m未満の区域
 5.0～10.0m未満の区域
 10.0～20.0m未満の区域
 市町村界
 遊水地群（建設中）
↔ 浸水想定区域の指定対象となる洪水予報河川

【上江別東町・大麻栄町・元野幌・工栄町・大麻中町・文京台】課題

- 近隣住民への危険の周知を行い、防災意識を高める必要がある。

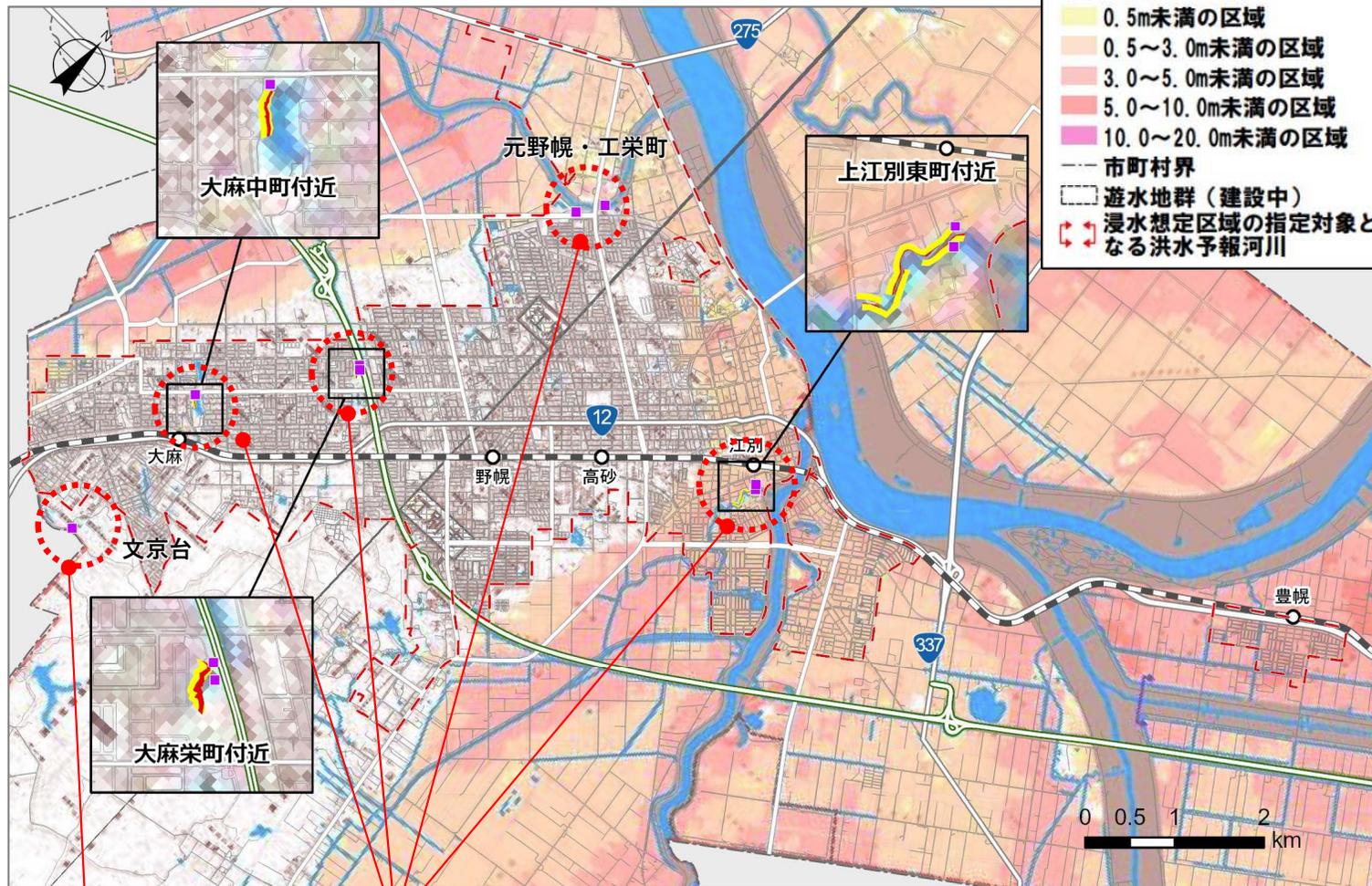
【浸水想定区域】課題

- 住民の防災意識を高め、災害に備える必要がある
- 避難行動要支援者の避難の在り方を地域等とともに講じる必要がある

(5) 防災まちづくりに向けた取組の検討

① 防災対策の方針 (将来像)

市全体の方針	
共通	<ul style="list-style-type: none"> 防災情報や避難所等の情報発信、避難訓練等の実施 避難行動要支援者の避難支援体制づくり 各団体との協力協定 避難路の確保
洪水災害	<ul style="list-style-type: none"> 警戒レベルに応じた避難行動の周知 適切な施設の維持管理や定期的な巡視 総合的な治水対策の推進
地震災害	<ul style="list-style-type: none"> 建物等の耐震化の促進



【上江別東町・大麻栄町・元野幌・工栄町・大麻中町・文京台】土砂災害対策の方針

- 住民への危険区域の周知
- 住民の防災意識の向上

【浸水想定区域】洪水災害対策の方針

- 災害に関する情報提供や避難訓練等を通じた防災意識の向上
- 避難行動要配支援者の支援体制の構築

(5) 防災まちづくりに向けた取組の検討

実施地域	災害種別	取組内容	実施主体	スケジュール		
				短期 (~5年)	中期 (~10年)	長期 (~20年)
市内全域	共通	ホームページ、広報誌、防災講座、学校教育等を通じた防災知識の普及・啓発と身近な対策の促進	市	→		
市内全域	共通	ハザードマップ、HP、防災講座等による危険箇所、避難所の周知	市	→		
市内全域	共通	学校、職場、施設、地域等での災害に備えた避難訓練の実施	市・市民	→		
市内全域	共通	防災情報発信の多重化	市	→		
市内全域	共通	民間事業者や関係機関等と災害時における協定を締結し、協力体制を構築	国・道・市・事業者	→		
市内全域	共通	避難行動要支援者の把握及び市・関係機関・地域等との連携による避難支援体制づくり	市・市民	→		
市内全域	共通	道路施設の定期的な点検や補修等の推進による安全な避難経路の確保	国・道・市	→		
市内全域	共通	個別避難計画の作成の促進	市・市民	→	→	
大規模盛土造成地	土砂災害	対象地の定期的な点検(必要に応じて調査)	市	→		
土砂災害特別警戒区域 土砂災害警戒区域	土砂災害	対象住民に対する情報伝達体制の確立	市・市民	→		

→ 取組の推進や体制の構築

⇒ 取組の継続

(5) 防災まちづくりに向けた取組の検討

実施地域	災害種別	取組内容	実施主体	スケジュール		
				短期 (~5年)	中期 (~10年)	長期 (~20年)
浸水想定区域 土砂災害警戒区域等	洪水・ 土砂災害	優先的な個別避難計画の作成の促進	市・市民	→	→	→
浸水想定区域 土砂災害警戒区域等	洪水・ 土砂災害	要配慮者利用施設における避難確保計画の 作成の促進	市・事業者	→	→	→
市内全域	洪水	警戒レベルを多様な媒体で発信	市	→	→	→
市内全域	洪水	水防計画に基づき、河川や水路等の施設を 巡視	市・市民・ 事業者	→	→	→
市内全域	洪水	河川の堤防整備などの推進	国・道・市	→	→	→
市内全域	洪水	河川、水路の浚渫や排水機場の適切な維持 管理	国・道・市	→	→	→
浸水想定区域	洪水	河川増水時のタイムライン(防災行動計画)の 周知	国・市	→	→	→
江別地区・野幌地区の一部(千 歳川流域)	洪水	千歳川流域の堤防整備、河道掘削の推進	国・道	→	→	→
江別地区・野幌地区の一部(千 歳川流域)	洪水	千歳川流域の内水対策(排水機場や水路な どの整備や雨水の流出抑制等)の推進	国・道・市・ 事業者	→	→	→
市内全域	地震	木造住宅等の耐震化に関する支援	市	→	→	→

 取組の推進や
体制の構築
 取組の継続